

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 武庫川女子大学 実施報告書



実施主体 心理・社会福祉学科社会福祉コース3年生有志

実施内容 平成25年10月19・20日の文学祭、11月1日に啓発活動

①事前に取り組んだ内容

文化祭の展示発表のために、児童虐待について模造紙にまとめた。西宮市の協力の元、子育てサロンに参加している民生・児童委員、主任児童委員に児童虐待防止についてインタビューを行った。また、文化祭の来場者に配布するダイヤルカードを作成した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

文化祭では、事前に作成したダイヤルカードの配布や模造紙の展示発表を行った。児童虐待について、西宮市からお借りしたオレンジネットで使用した物品を展示した。オレンジリボンの作成やオレンジリボンの認知度調査を行った。また、11月1日には、西宮市の活動のオレンジネットに参加し、阪神甲子園駅周辺で児童虐待防止に関するティッシュ、ちらしを配布した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

オレンジリボン運動を通して、今まで知らなかった児童虐待の現状や対応について学ぶことが多くあった。

活動を通して特に感じたことは、オレンジリボンの認知度が低いということだ。ピンクリボンの認知度が圧倒的に高かったように思う。さらに、虐待というと、メディアに報道されているような事例に目を向けることが多いが、メディアに報道されないような虐待のケースに関しても関心を持つべきであると思った。

また、今回協力して頂いた民生・児童委員、主任児童委員へのインタビューの中で、孤立している家庭は虐待を起こしてしまうという話を伺った。そこで、今回の活動を通して、少しでも子育てに悩む親御さんの力になればと思った。それと同時に、学生の児童虐待への関心が高まれば嬉しく感じた。

